

沖縄戦戦没者の遺骨等を含む地域の土砂を埋め立てに使用しない
よう求める意見書

沖縄戦では一般住民を巻き込んだ悲惨な地上戦が行われ、多くの尊い命が失われ、沖縄の住民のみならず、全国から召集された日本兵をはじめ、様々な背景を持つ戦没者が現在も沖縄の地に眠っている。

沖縄県糸満市摩文仁の平和祈念公園内にある「平和の礎」には、国籍や軍人・軍属・民間人の区別なく沖縄戦等で亡くなられた 24 万人有余の氏名が刻銘されている。

この沖縄戦では京都府出身の軍人 2 千 5 百人有余の人々が命を落とすこととなり、これらの人々の御冥福を祈るため、京都府民により昭和 39 年、沖縄県宜野湾市嘉数の丘に「京都の塔」が建立され、毎年現地において慰霊巡拝、慰霊式が催されている。

戦没者の遺骨収集が今も続く沖縄県南部から採取した土砂をいかなる埋め立てに使用することは、戦没者とその遺族の尊厳の尊重を求める願いに背くもので人道上許されるものではない。このことは、日米同盟の抑止力の維持と普天間飛行場の危険性除去のための辺野古移設についての議論と混同してはならない。

については、本府議会は、国に対して次のとおり求める。

記

- 1 沖縄戦戦没者の遺骨等を含む地域の土砂を基地建設の埋め立て等に使用しないこと。
- 2 わが国で唯一、住民を巻き込んだ地上戦があった沖縄の事情に鑑み、「戦没者の遺骨収集の推進に関する法律」を遵守し、国が主体となって戦没者遺骨収集を実施すること。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出する。

令和 3 年 12 月 20 日

衆議院議長	細 田 博 之 殿
参議院議長	山 東 昭 子 殿
内閣総理大臣	岸 田 文 雄 殿
外務大臣	林 芳 正 殿
厚生労働大臣	後 藤 茂 之 殿
国土交通大臣	斉 藤 鉄 夫 殿
防衛大臣	岸 信 夫 殿
内閣官房長官	松 野 博 一 殿
内閣府特命担当大臣 (沖縄及び北方対策)	西 銘 恒三郎 殿

京都府議会議長 菅 谷 寛 志